

四国電力の環境問題(エコ)への取り組み

取材者 広報委員 あわハウジング 遠藤 久子

四国地域のエネルギー供給を担っている四国電力がどのように環境問題に取り組んでいるのかを知る為、電力ビルの5階総務部をおたずねしました。総務部次長の脇泰隆氏と広報課長の石黒卓哉氏が、仕事のあい間をぬって応待して下さいました。地域と地球の環境保全に全社を挙げて取り組んでいることをできるだけ多くの人に知ってもらい、又、協力もお願いしたいという並々ならぬ姿勢は、事前に用意していただいていた資料の厚さと、1時間弱のレクチャーで十分に感じ取ることができました。

まず、基本方針の3本柱は、①あらゆる事業分野において環境負荷の継続的低減をはかること②環境管理の推進③社会とのコミュニケーションの推進です。この方針を実現するための具体的な行動として次の5つの努力を実行しています。

①地球温暖化対策の推進

京都議定書でよく知られているCO₂の排出を少なくします。原子力発電が一番CO₂の排出が少ないので原子力を中心として電源の多様化に取り組



四電ビル全景



事務所内

んでいます。

現在のシェアは原子力40%、水力10%、火力約50%、風力と太陽光は合わせても1%以下ですが、今後増やしていく予定です。

その他、夜間電力を増やして電気の使用量削減したり、石炭ガス化複合発電などの調査、研究に取り組んでいます。

②地域環境保全の推進

大気汚染防止設備で大気汚染の防止、総合排水処理装置の設置により水質汚濁、騒音、振動の防止に努めています。又、発電所の緑化などにも力を入れています。ちなみに橘湾の四電発電所は敷地の40%が緑化されているそうです。



(左) 石黒氏 (右) 脇氏

③循環型社会形成の推進（リサイクル）

産業廃棄物、一般廃棄物の有効利用を徹底したり、原子力発電所から発生する使用済燃料を再処理し、回収したウランやプルトニウムを再利用しています。

全社でエコオフィス運動を推進し、再生紙利用に取り組み、電気・水・ガソリンの節減をしています。努力の甲斐があって1990年度と比べて現在は約20%の削減成果が上っています。

④環境管理の推進

⑤社会とのコミュニケーションの推進

エネルギー教室など地域と一体となった社会貢献活動を行い、又、海外では開発途上国への技術協力や電力事業者との情報交換に努めています。

次に会社（事務所）で、又は家庭でできるエコ活動を教えていただきました。

<事業所でできるエコ活動>

活動項目	具体的な取り組み
事業所における適切な空調温度の設定 ・期間：12月1日～3月31日 (機械室等は除く)	・空調温度20℃を目安に設定する
昼休みおよび退社時の事務所内の消灯	・各職場で担当者を輪番制で定めるなど、昼休みの消灯を徹底する ・最終退出者による消灯を徹底する (未消灯個所には、管理個所から後に通知する)
OA機器の不使用时の停止	・昼休み中はノートPCのディスプレイを閉じる ・外出等長時間離席時する際のPC電源OFFを徹底する ・最終退出者によるコピー・プリンター等共用OA機器の電源OFFを徹底する
最寄階へのエレベーター使用の自粛	・2アップ3ダウンを励行する (基準として昇りは2フロア、降りは3フロア間は、階段を利用し昇降する) ・各階エレベーター昇降ボタン付近に、ステッカー等で表示し使用自粛の浸透を図る
節水の励行	・水道蛇口をこまめに締める ・水道蛇口付近へ節水を表示し、浸透を図る
車両燃料の節約	・社有車の効率的な運行に努める ・駐停車時のアイドリングストップ実施徹底 ・急発進・急加速・空ぶかしは行わない ・公共交通機関の利用を促進する
定時退社の推進及び計画的な休暇取得	・職場においてノー残業デー運動を励行する ・休暇を計画的に取得する

以上

